

# 「資質・能力を育成するためにねらいを明確にした授業を！」

目標？ ねらい？ めあて？

ねらいを明確にした授業とは？

ねらいに沿った授業展開のために

## 教育用語を確かめましょう

**目標**：児童生徒に身に付けさせたい力  
(資質・能力)

**ねらい**：目標に迫るために行う学習活動等の  
教師の意図

**めあて**：「目標」「ねらい」を達成するための  
学習課題を児童生徒向けの言葉で  
示したものを。

指導のねらいがはっきりしていることは、  
よい授業で求められる条件の一つ！



教師の指示があるから  
〇〇するのではなく、  
「何のために〇〇  
するのか」子ども  
たちが分かっている  
ことが大切。

## 指導のねらいがはっきりしている

授業を行う上で、「何のために学ぶのか」「学ぶことでどんな力が付くのか」ということを子どもたちと共有しておくことが大切です。授業を組み立てていく際に、『指導方法』に意識が向いてしまい、大切な『指導目標』や『指導内容』が疎かになってしまうことがあります。まず、「伸ばしたい資質・能力は何か」という指導目標を設定し、目標を達成するためにはどのような教材を使って、どのような内容を指導すればよいのかを考えます。そして、どのような方法で指導していくのかということを計画していくのです。

ねらいが明確だからこそ、自分で、(自分たちで)  
学び進めることができる！

個別最適な学びは、自分のやり方で、自分のペースで学習を進めることができます。これは、児童生徒自身が自らの特徴やどのように学習を進めることが効果的であるかを学んでいくことにつながります。このような学びが成立するためにも、児童生徒の高めたい資質・能力やねらいを学習者と共有しておくことが大切です。どこに向かっていくのか、ゴールがはっきりしているからこそ、見通しをもってそれぞれが学習を進めていくことができるのです。

## 効果的な発問を練る

発問とは、授業中に教師が行う意図的な問いかけ(指導言)のことをいい、授業構成の核となる非常に重要な指導技術です。十分な教材研究や板書計画に合わせて、学級の実態に応じた発問を考えることが、子どものより深い思考を促し、自分なりの考えをつくり出す手立てとなります。

### 【閉じた発問と開いた発問】

閉じた発問とは、YesかNoで答えられるものや答えが1つしかないものです。閉じた発問は、開いた発問の前段階として用いると有効で、授業にリズムやテンポを生み出すことができます。しかし、閉じた発問だけでは、子どもたちの思考力を刺激するものにはならず、授業が単調なものになってしまいます。

EX:①草食動物の目は、顔のどこについていますか。  
②草食動物の目が顔の横についているのは、なぜだと思えますか。

### 【効果的な発問づくりのポイント】

- ◇ねらいに即して発問を使い分ける。
- ◇ねらいを明確にして、応答を予測する。
- ◇子どもの実態に合わせる。
- ◇子どもが自ら疑問をもつよう教材や教具を工夫する。
- ◇発問を吟味する。
- ◇学習基盤の大切さ



参考資料

学習指導の基本を身に付けよう授業づくりQ&A～『よい授業』を目指して～  
平成23年3月 島根県教育センター 浜田教育センター

詳しく知りたい方は



## 個別最適な学びとの関連

「何のために学ぶのか」「学ぶことでどんな力が付くのか」ねらいをはっきりさせることで、子どもたちの学ぶ意欲につながります。また、児童が自分の「学び」がねらいとずれてはいないか立ち返る指針となり、学びの調整につながります。